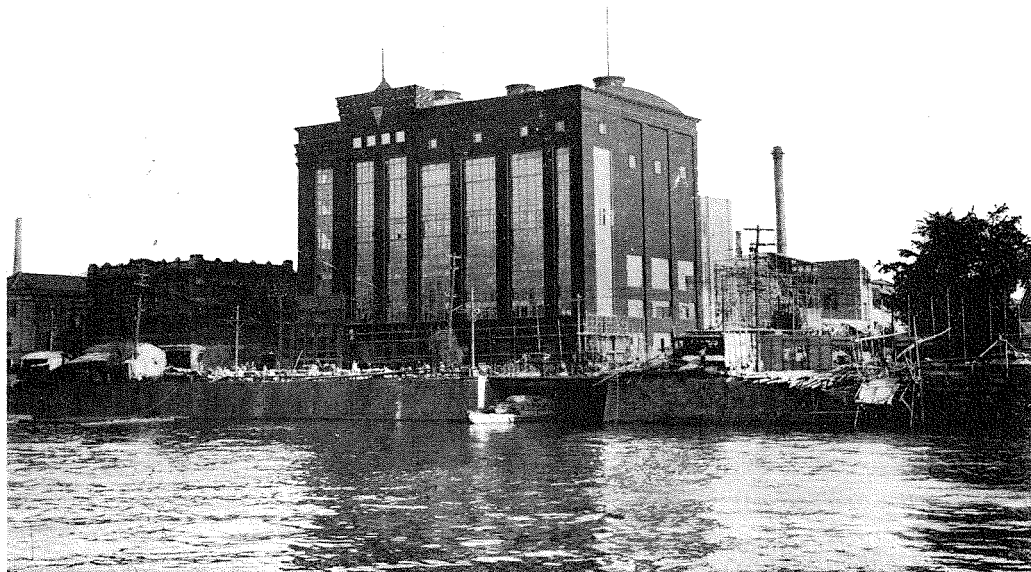


Asahi Kai Kan, a Building of the Very Modern Design and Type. The Ground occupied 1477 tsubo, Steel-Structure Building of Steel Structure and Reinforced Concrete. Designed and built by Takenaka Komuten.



(1) 朝日會館全景

(1) The General View of Asahi Kai Kan.

朝日會館の新築工事

竹中工務店技師 松下甚三郎

大膽な建築様式を以て生れた大阪の朝日會館は黑色怪異の巍然たる姿を堂島川の清流に臨んで聳えてをる。四階以上を公演場とする爲めには設計施工上に大なる苦心がある。特に様式と館内の意匠に於ては日本に於ける最も新しい試みである。(編者)

建築の色に就ては従來白色又は鼠を普通としたが、近來黄色または茶色に轉じた、本館は更に一步を進めて黑色金線の新意匠を用ひた。黒は色彩表現の基調であらゆる色彩を包含し、あらゆる色の最後の到達點である。

内部はトップライトの既にすたらんとしてをる今日五階全部を幅14尺の一本の大窓に貫き床より天井に及ぶ横光線を利用し、スクリーンの面の延長 1000 尺に及ぶ大展覽場を、100 尺の高さに2000人を容れ坐席三階に及び

然も二重の周壁は外界の雜音を防ぎ、天井は五段のステップを以て勾配を有し、音聲の反響吸収にも頗る調階して聽者に快きのみならず、場内の裝飾及び彩色は總てエジプト式に依り世界文化の創建を思はしめる。

耐震耐火の構造たるは勿論、鐵骨内に徑間50尺のトラスガーダーを取入れたる如きは設計及び施工上大の苦心の存する處で、朝日會館の名を俱に其の設計施工者たる竹中工務店の名を偉大ならしむるものである。

又舞臺裝置は土方與志氏及び大森正男氏、裝飾意匠は京都帝大教授濱田青陵博士、助手能勢丑三氏の助言により、舞臺中央及び左右の彫刻は同大學建築科講師中牟田氏の力作である。

朝日會館設計の概要

一、建坪及び延坪 建坪 259 坪 049 延坪 1477 坪58

内 譯

地下室 259 坪 049、一階 259 坪 049、二階 254 坪 775、三階 258 坪 113、四階 297 坪 092、五階 211 坪 253、六階 28 坪 249

二、建物の高 中央最高軒高 100 尺

三、外觀に就て 近世ドイツ式にて建物全體をめぐり單一でそして高雅な黒き金ごのリズム其中に平調を破る大きなガラス面其全體の感じは會館の使命をそのまゝに表現せり。

四、外 部 立關入口廻りテラコッタ（伊奈製）を使用し他の壁面は黒色人造石洗出し大窓額縁は京都泰山製金色タイルを使用軒蛇腹は金箔塗す。

五、構造の大様 柱、梁、トラスは鐵骨構造床壁は鐵筋コンクリート造、屋根は鐵の上にハイリツブコンクリート打す。

六、基 礎 地盤線下18尺掘下け特許田中式〔コンクリートパイル〕打の上割栗石敷込コンクリート打す。

七、床仕上げ 鐵筋コンクリート床上に〔モルタル〕にて班直しの上、各階タイル又はノリユーム敷す。

八、内部壁及天井仕上げ 地階、天井大連ドロマイド仕上げ、壁モルタル仕上げ。

一階 立關天井大連ドロマイド仕上げ壁洋光石張、其他の諸室は二階共何れも大連ドロマイド仕上げす。

三階 天井大連ドロマイド塗の上キルクをふきつけ仕上げ腰壁日華石交り人造石洗出しす。

四階 廊下天井砂入りドロマイド塗り壁石交

りドロマイド仕上げす、腰五尺通りタイル張仕上げす、觀覽席天井キルク及砂交り大連ドロマイド仕上げ壁新聞紙型張りの上ペンキ塗腰英國レキシン革張りす。

九、階 段 各階鐵筋コンクリート製段板蹴込板共タイル張り人造石仕上げ手摺は鑄鐵製手摺鹽地製す。

一〇、窓及入口 外部窓、出入口何れも江東サツシユ會社の鐵製兩開一部廻轉付、立關入口及び舞臺外部入口シャッター取付す。

一一、電氣時計、電話電鈴、報鈴設備 電氣時計三階、四階エレベーター上部に設置す、電話各階各室、立關切符賣場、四階廊下に公衆電話、電鈴は電氣室其他に、開幕報鈴は、三四階に取付けたり。

一二、エレベーター 日本エレベーター製二基取付く。

一三、避雷針 本館屋上に二基取付く。

一四、電燈及動力設備 電力は大阪市電氣局より地中線により供給を受け四階變電所にて30KV A 3 臺の變壓器により2500ヴォルトより700ヴォルトに變電一般及舞臺照明に使用す。

一五、暖房裝置 眞空式低壓蒸氣暖房裝置を用ひ直接暖房裝置せり。

四 階 公 演 場

一、高さ其他に就て 天井高34尺舞臺高 3尺5寸、小プロセニウム高21尺5寸、大同26尺5寸、舞臺間口6間、小舞臺奥行3間半、大同同5間、舞臺天井高34尺。

二、坪數及收容人數に就て 四階138坪90(坪數)、1036人(收容人數)、五階121坪253(坪數)、554人(收容人數)總計1590名。

三、内部様式に就て 埃及式、太く重々しき柱、左右高く舞踊音樂を表はせし薄肉彫、ゆるやかな三色の光は物静かささ落着きを見せてる。

四、舞臺裝置 舞臺を使用し得る最大の範圍を取る、クツベルホリゾント葡萄棚、樂屋、

映寫幕、電氣室、大道具室、講演者控室、等を取る。

五、舞臺照明及各席照明 山本電氣商會の施行にかゝり舞臺照明はボーダーライト五列を取付け得、尙ボーダーライトに替り得る一個500ワット迄使用し得る反射器數十個を設け自由に適當なる箇所に吊下けるものさす、尙客席左右中二階、舞臺左右柱裏にスポットライト室を設け75アンペアのスポット六臺を使用せしめ共に30KW變燭機二臺に依り變燭せしむ、客席の照明は露出器具を避け中央明り取窓及左右天井樋より採光せしむ、大天井明り取窓一ヶ所毎に一色500ワット電球24個を設置しギャラリー明り取窓には200ワット電球六個を設置し左右樋内部には400ワット電球300個を設置せり、全部30KW用變燭機を用ひ、照明度を自由に加減せしむ、尙全部三色に變色せしめ得る装置をなし舞臺調色につれ觀覽席も適當なる配色をなさしむ。

六、館内採光 活動寫眞用さし15KWの直流電動發電機を常備す、會館周圍の雜音を防止する爲めさ館内の氣分を表はすため天窓のみをこれり。

七、音響 最も慎重に留意し音響の吸收、反響につき苦心せり、壁には紙型、腰は皮張り天井はドロマイドキルク入さしてその完全を期せり。なほ紙型さ革張さの間には本社特製の亞鉛凸版張させり。

八、客席と舞臺との關係 客席床(三越家具部)に十分の勾配を附し觀者に十分に舞臺を見得る様設備せり。

九、非常時に於ける設備 昇降は二個のエレベーター、幅8尺の大階段二個をもつてしなほ非常及常時用さして會堂より直接、街路に通ずる鐵骨、鐵筋コンクリート造大階段二組を設備せり。

一〇、暖房 換氣暖房装置を採用し舊館三階の屋上に機械室を新設し空氣加熱器、空氣洗滌機、送風機等を設備し新鮮なる氣空を取入れて加熱しなほ塵埃を除くため空氣洗滌機によりて洗滌したる後これを會堂内に吹き出し室内の溫度を適當に保つさ同時に衛生的な氣空狀態を持続し得る装置さす。

一一、冷房装置 前記暖房装置を夏季は冷房装置に使用す、地下400尺の井戸より吸ひ揚げたる冷水をもつて空氣を冷却洗滌しこれを會館内に吹き出さしめ溫度を下げしむ。

工 程

一、工程 起工大正14年3月25日、竣工大正15年10月9日。

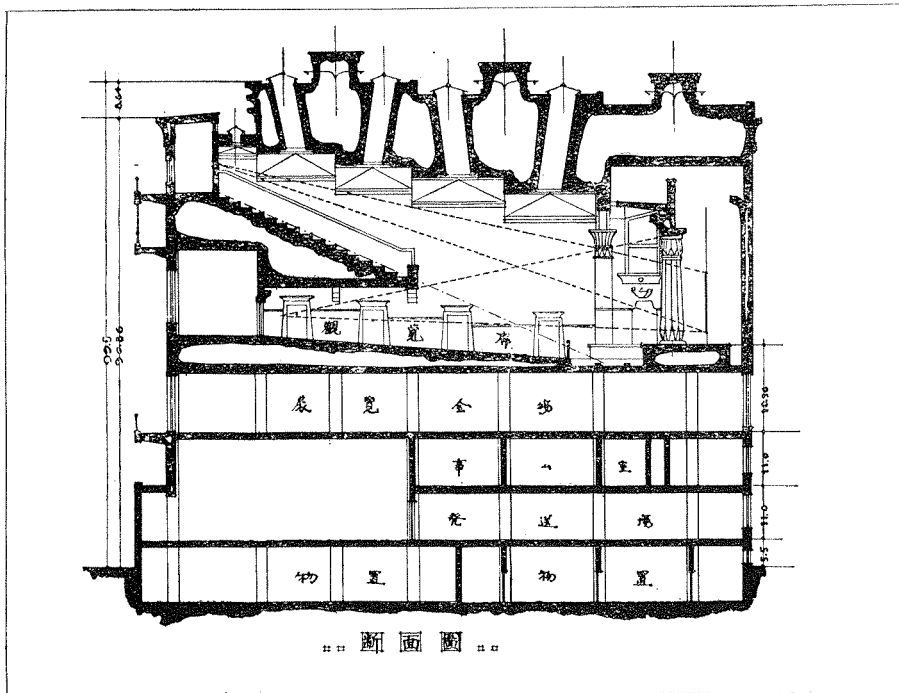
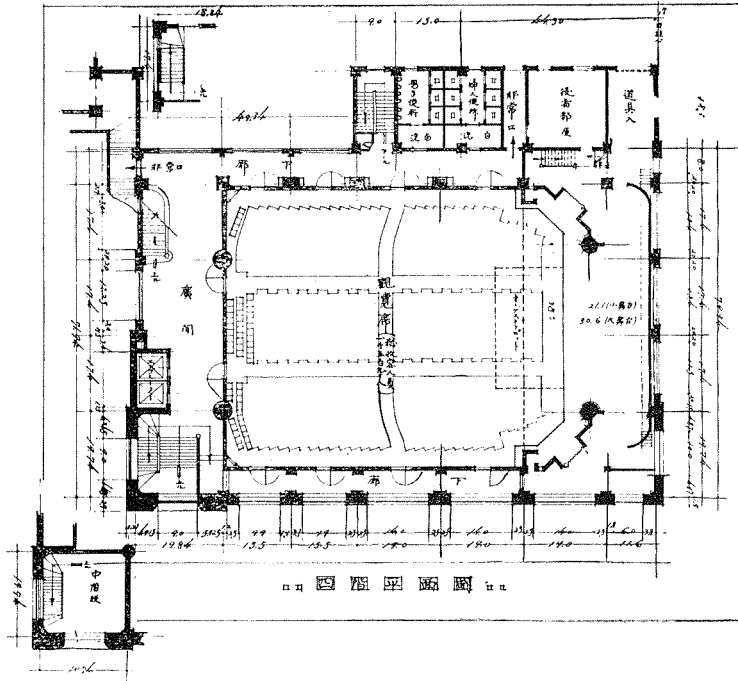
二、主なる材料 鐵材(松尾)1100噸、セメント(小野田)9400樽、防水劑ロータス3200封度、スチールサツシ(江東)10,000平方尺、タイル60,000枚、大連ドロマイド1,200袋、使用人數45,995人。

三、工事擔當者

設計施工	合名會社 竹中工務店
設計主任	松下甚三郎
構造計算	青柳貞世
現場主任	瀧 邦 一

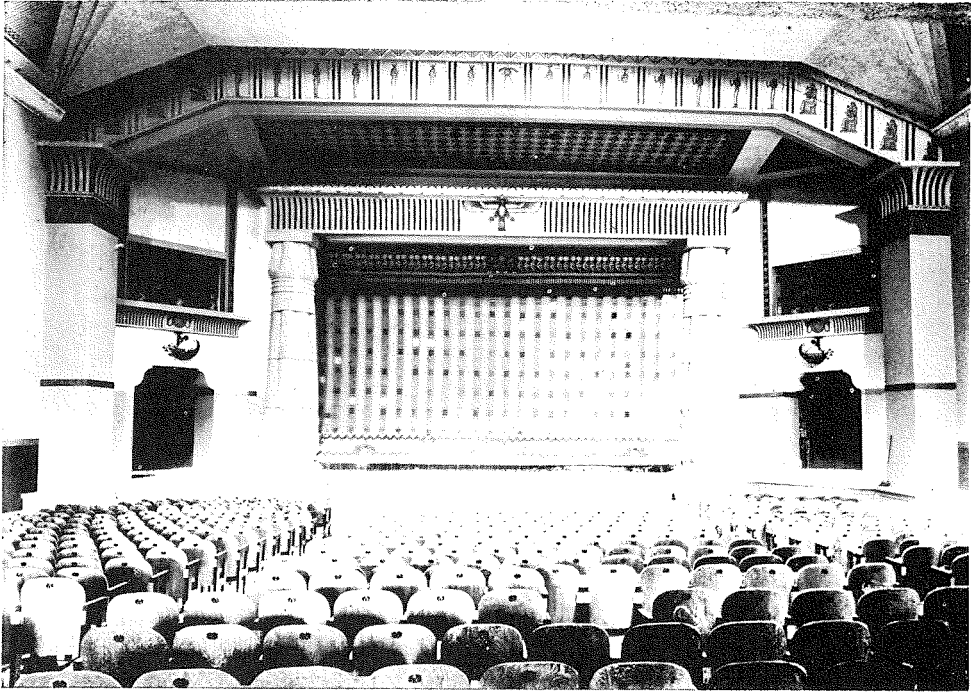
(2) 朝日會館四階公演場平面圖

(2) Plan View of the Theatrical Hall on the 4th Floor.

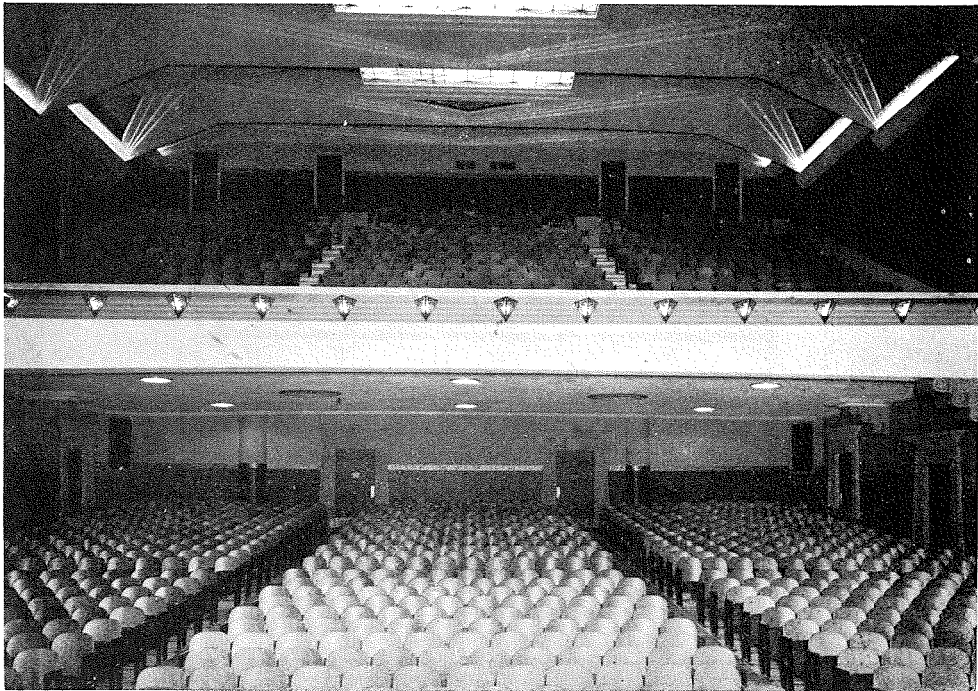


(3) 朝日會館設計斷面圖

(3) Asahi Kai Kan, its Side Sectional View, Showing the Lighting Arrangement in the Theatrical Hall.

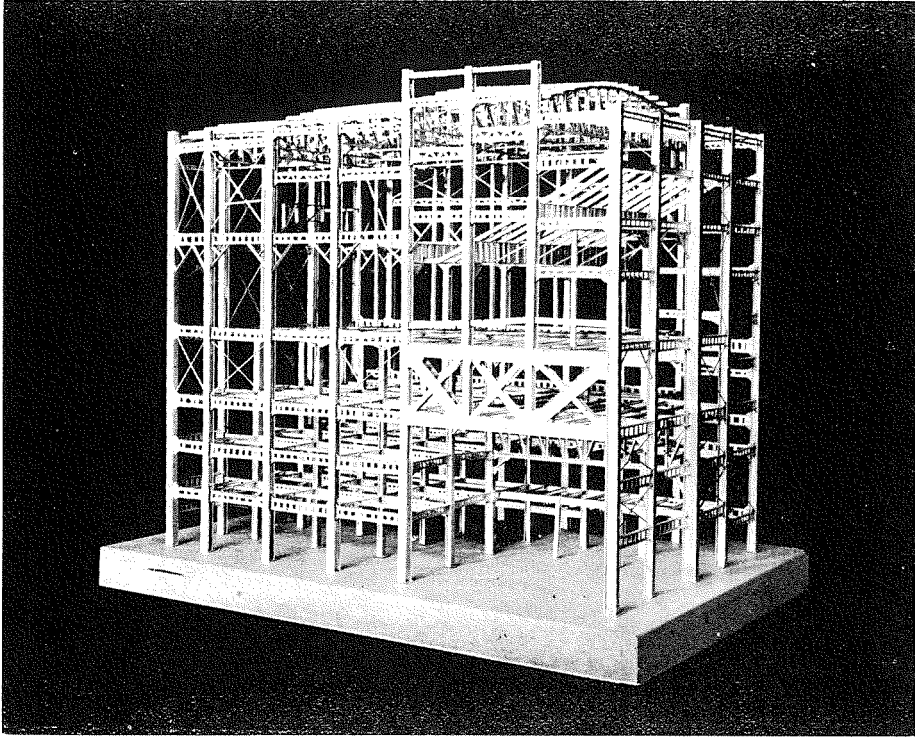


(4) 朝日會館公演場、ギャラリーから見た舞臺正面 (4) The Theoretical Hall, View of the Stage seen from the Gallery.



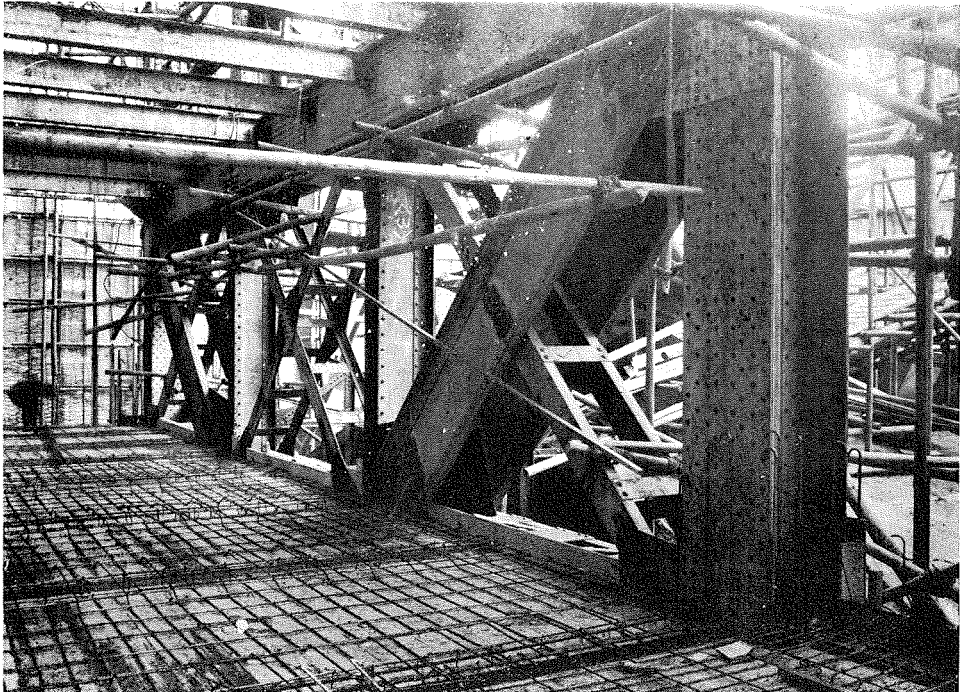
(5) 同上 觀覽席

(5) The Theoretical Hall.



(6) 朝日會館鐵骨模型

(6) The Model of the Steel Structure.



(7) 同工事中の三階床鐵筋及び大鐵骨梁を示す、此梁はスパン50尺、梁高18尺のトラスである。
(7) The Third Floor, Showing the Reinforcement and the Large Steel Trusses. The Truss is of 50 ft. Span.